



地域支援センターだより

地域支援センターやわた

今年度 2 回の「スキルアップ研修会」を実施しました

毎回、様々な校種から多くの先生方の参加があり、おかげさまで本年度のスキルアップ研修会も好評のうちに終わることができました。地域の先生方のニーズに応じた研修会を企画していきたいと考えていますので、来年度も奮って御参加ください。

7月23日(月)、星槎大学大学院教育実践研究科准教授 阿部利彦氏をお招きして「クラスで気になる子の支援ファイル～オリジナル発達の子もとともに～」という演題で御講演をいただきました。講義では、疑似体験を通じて発達障害のある子どもに対する理解を深め、書字が苦手な子や読みが苦手な子への支援、行動の見通しが持てない・切り替えが苦手な子への支援、係活動や役割行動が難しい場合の支援など具体的な課題に対して、具体的な支援方法を教えていただきました。参加された先生方からは「新学期に向けてクラスの子どもたちのために学習準備、環境整備に努めていきます。」「いろいろなゲームや活動を体験でき、理解を深めることができました。」「モチベーションをどのように上げるかが支援にとっては大事ということを改めて思いました。」などの意見が寄せられました。



12月21日(金)、学校法人青丹学園発達・教育支援センター「フラーテルL.C.」所長で、言語聴覚士、特別支援教育士スーパーバイザーの村井敏宏氏をお招きして、「通常学級における読み書きが苦手な児童生徒への支援について」という演題で御講演をいただきました。

講義では、かな、漢字、英語など、一括りに読み書きが苦手だといっても、文字と音が結びつかない「音韻認識の弱さ」、文字の形が捉えられない「空間認識・視機能の弱さ」、不注意な書き間違いや速くいい加減な書き方になる「多動・衝動性の強さ」など、つまずきにはタイプがあることを解説していただきました。そして、アセスメントからそれぞれのタイプに応じた指導支援の方法や具体的な教材についてもたくさんご紹介いただきました。小学校入学時には、8～9割の子どもがひらがなを読む力が育っているといわれており、そこでつまずきが見られれば、入学後に読み書きで苦勞することが予想されること、早期につまずきを把握し早く支援に繋げることの大切さを、改めてお話しいただきました。参加された先生方からは、「困り感を漠然と捉えていましたが、こどもの誤りのパターンをわかって指導することが大切だと思いました。」「ひらがなの獲得につながる音韻の力を伸ばすことば遊びは、保幼でも日常の遊びの中でも取り入れていけると思います。」との意見が寄せられました。